

## 要約

私は本論文において、コンビニの本質と現状を明らかにし、それから見出される問題に対しての対策の提言を論じている。

まず、本文第一章では、コンビニの特長からその本質と思われるものを抽出し、まとめることで、私のコンビニに対する視点を明らかにした。特長と本質の分離抽出作業においては、今現在のコンビニ社会を形成するうえでの重要性に着眼した。この章をもって私のコンビニ原論とし、後の章では、「コンビニの本質」とは、「コンビニの出店システム」と「コンビニエンスの追求・実践」この二点を指す。

次章において、コンビニの本質がもたらしたフォーマットの爆発的拡大とサービスの多様化が「コンビニ社会」ともいえる現状を作り出したことの確認をするとともに、その短い歴史の中でコンビニ社会が急速に成熟したことから考えられる、「コンビニオーナーの高齢化」という問題を提起し、それに対する現行の対策の問題点にも触れた。

次に、その問題を考え、対策の提案をするにあたって、オーナーの実態を知り、彼等自身の高齢化が招く問題についての意識等を調べるために行った、宇都宮市のセブンイレブンのオーナーと従業員への聞き取り調査の結果と考察を示した。個人的に意識のばらつきが見られたが、彼等の共通認識として、オーナーの労働時間の短縮と、それに伴う現場監督能力の欠如がコンビニの具体的な問題点としてわかった。しかし、そのことに対する長期的対策への意識は希薄なものであることも同時に明らかになった。

最後に、問題に対する対策を二案提示し、今後のコンビニ社会を安定させるための方向性を示した。加えて、今後のコンビニ社会のあり方を、現在の状況に即して考察することで結びとした。